

# 東京非鉄協組・アルミ部会

# 価格変動リスクに警戒感

## 定例部会開く

東京の非鉄原料問屋で組織する東京非鉄金属

属商工協同組合のアル

ミ部会（アルミ部会長

岡村雄悟・岡村金属

社長）は25日、東京・

上野で今年初めての定

例部会を開催し9人が

出席した。アルミスク

ラップ市況について

は、ロンドン金属取引

所（LME）アルミ相

場の上下動に予断を許

さない状況が続くそう

との見方が示された。

売るのに困ることのな

いアルミスクラップだ

を読み間違えるリスク

への警戒感が強いとの

声がかかれた。

相場が下落しやすい

アノマリー（過去の特

徴的な値動きから導き

出された経験則）から

アルミスクラップの下

げだが、今年は値上げ

交渉が始まった。1月

後半から2月前半にか

けては基本据え置き。

2月上旬に金や銅など

の非鉄金属の急落に連

れ安する形で、LME

のアルミが大幅下落し

スクラップは基本横ばいで踏みとどまったものの、値下げ交渉も行われたようだ。

LMEのアルミが軟調に推移すれば3月前半のアルミスクラップは下げ見通し。ただ、

足元でLMEが反発したことで、スクラップの下げ機運が後退もよ

う。出席者から「品物も少ない。LMEの反発基調が続くのであれば3月前半も基本横ばいだろう」との見方も示された。

実際に市中のスクラ

ップ発生は少ない、との意見が多かった。特に、アルミ込みガラや解体サッシの減少が話題に上った。込みガラ

が減少している要因として、鍋の耐久性向上や料理する機会の減少

などにより、家庭から出てくる使用済み鍋が減っているもよう。廃

業した飲食店の使用済み鍋はリサイクルショップに持ち込むのが主流になってきているよう

だ。人手不足や騒音などへの対応による工事の遅れなどで、解体現

場から出てくる解体サッシの発生も減っている。

「前年同期に比べ、今年1-2月の荷動きは鈍い」。年度末が近づくとスクラップが出てきてもおかしくない時期を迎えつつある

が、原料問屋への持ち込みは依然少ない。

アルミ部会は定期的に部会を開催している。組合外の人たちも

気軽に参加できるような活動を、今年も行っていく方針だ。